

## —この双書の利用に当たって—

この双書は、以下のような特徴を持っていますので、利用に当たって是非参考にされるようお願い致します。

1. イメージマップも学習マップも、作成のプロセス、型、活用の仕方等において、もともとの原型に少なからぬ変更を加えています。主として新潟県立教育センターにおける研修や実践的研究から、その必要性が明らかになったためです。また、変更の内容については、類似の方法や創造工学の技法等から取り入れています。従って、この双書でいうイメージマップ、学習マップの源泉は複数存在します。

そこでこの双書では、両マップの複数の源泉についても解説し、各源泉に関する活用例を、可能な限り載せておきました。

源泉について知ることは、少なくとも次の2点で重要だと考えます。

- (1) マップを深く理解することに通じ、各先生がその個性を生かしたマップ活用実践のアイデアを育むのに役立つ。
  - (2) 各源泉の持つ優れた特徴をそのままの形で生かしたり様々に組み合わせて、ベターな実践へ向けて、豊かなアイデアを形成するための素材情報にできる。
2. 小・中・高の様々な実践例を、評価を付して載せました。ねらいは次の3点です。
    - (1) 校種や教科の壁を越えて情報を入手した方が、質的にいろいろな手がかりを得られ、多様なアイデアを産み出せる。
    - (2) 小・中・高の指導の実際をかいま見れるので、校種間の関連を考慮した指導内容に気付く。
    - (3) 実践は、評価し改善することで指導の質が向上する。評価を載せるのは、授業実践者の問題提起に目を向け、改善した実践を試みられることを切望するからです。

※ 本双書では、情報活用能力ではなく、情報活用力という表現にしています。その理由を下に記します。

学習の成果が身につくについて、新たな課題解決に応用できるようになった時、一般に、「力」がついたといいます。この「力」を新たな領域などより多様な場面で発揮して成果をあげていくと、「力」は質的に変化して「能力」にまで高まります。従って、能力に高めるには、まずもって「力」に高めなければなりません。これは、一朝一夕でつくものではないので、ここに焦点を合わせる必要があります。